

1. 教育の責任

- 1) 精神看護学概論：精神看護の基本となる人の心のはたらき、脳の解剖生理、人格の発達過程を理解した上で、精神保健上の健康や障害について理解を促す。また、精神障害に起因する「生きにくさ」や対象者が抱く思いについて、対象者の立場に立った共感的理解を促す。その上で、精神障害者を支えるリカバリーやストレングスなどの概念について理解し、看護師としてどのように支援すべきかを考える機会を提供する。
- 2) 多様性とメンタルヘルス：現在の日本での精神医療を取り巻く課題とメンタルヘルスの関連について海外の精神医療の取り組みなどと比較しながら、日本での精神保健福祉法などの施策や支援についてグローバルな視点で考えることができるように理解を促す。また、これまでの精神科の歴史的背景などを踏まえ、人権擁護などへの配慮ができる看護師として、どのようなケアができるのかを考える機会を提供する。

2. 教育の理念

精神疾患や精神障害は、「病気や障害が目にはみえない」「病気や障害に流動性がある」との主に2つの特徴を持っている。この特徴をわかりやすく理解し、具体的なケアとして実現するための方法を考え、具体的な看護ケアを実現することを教育理念としている。

3. 教育の方法

「精神看護学概論」「多様性とメンタルヘルス」は特に下記の内容を意識して取り入れている。

- 1) 教科書とパワーポイント教材の併用
- 2) 医学英語検定（4級）頻出の単語
- 3) 担当教員による臨床経験を活かした事例紹介
- 4) 国家試験対策問題
- 5) リアクションペーパーの活用

また、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの演習や精神看護学実習、統合看護学実習へと学年を経ることに学習進度に応じた学修ができるように、シラバス作成にも工夫を行っている。

4. 教育の成果

「精神看護学概論」「多様性とメンタルヘルス」で使用した講義用のパワーポイント資料を「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」の演習で使用したり、その後の精神看護学実習、統合看護学実習への事前学習の強化や実習の振り返りに用いたりして学生の継続した学修面の強化にも寄与できている。

5. 改善への努力と今後の目標

難しい精神医学用語への理解を促しながら、一方では英語でのキーワード説明などを取り入れるなど国際看護学部としての特色に応じた講義資料の作成や講義方法を適宜ブラッシュアップしていく必要がある。また、リアクションペーパーの内容を次の講義の際に教材として使用するなど、連続性を意識した教授方法を検討する必要がある。

【添付資料】

なし